

国際交流基金事業助成報告書

薬学部 2年次生 森 ゆきな

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の支援を受け、2023年3月6日から16日までの間オーストラリアニューサウスウェルズ州のキングスクリフにあるTAFEという専門学校にて薬学語学研修に参加しましたので報告いたします。

2. North Coast TAFE Kingscliff campus



写真1. TAFE

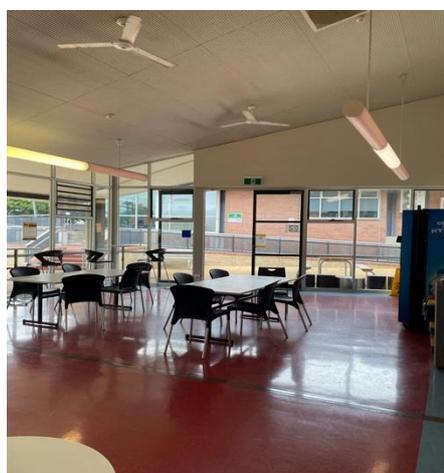


写真2. TAFEの食堂の様子

・ English class

ホームステイ先で使える英会話を練習したり、ビーチの安全、レシピの書き方などを学んだりしました。この他にも英語での伝言ゲームをしたり、先生が普段食べている朝食を英語のレシピを見ながら作ったりと楽しめる内容ばかりで、授業は全て英語でしたがわかりやすい単語や文法を使って話してくださったおかげで不安はすぐに無くなり、楽しく授業を受けることができました。

・ Pharmacy class

オーストラリアの薬局や医療システム、医療体制などについて学びました。実際に保湿クリームやビタミン補給液などを体験したりもしました。時折日本はどんな感じなのか、どう違うのかを質問しながら話を進めてくれました。

3. 課外活動



写真3.分包体験



写真4.アボリジニについての
課外活動の様子

・ Griffith University

ここではオーストラリアの分包方法を、お菓子を使って実際に一人一つずつ作ったり、最新の科学技術を体験したりしました。日本とは違い、薬を分包する入れ物は袋ではなく小分けの溝があるボードに分けて入れることがわかりました。そしてそのボードから薬が取り出しやすいように特別なカップを使うなどの工夫がされてしました。

・ Aboriginal Culture Awareness

実際にアボリジニの子孫の方々から伝統的な釣り道具を作ったり木の実を食べてみたり、アボリジニについて学ぶことができました。崖の上から綺麗な景色を眺めたり、最後にはみんなで海へ行き浅瀬で遊んだりしました。

4. ホームステイ



写真5. ピクニックをしたビーチ



写真6. ホームステイ先での朝食

私は2人で一つの家庭にホームステイさせていただきました。久しぶりのホームステイで少し緊張していましたが、ホストマザーが暖かく迎え入れてくれたため、毎日楽しく過ごすことができました。ホームステイ先の向かいの家庭とバーベキューをしたり、ホストマザーのご両親や甥っ子たちと遊んだり、たくさんの現地の方々とお話できる機会があり過ごす時間が長くなるにつれて徐々に自分の力で話せるようになってとても嬉しかったです。毎日おしゃれな食事を用意してくれたり、休日に限らず平日の学校終わりにもビーチやスーパー、観光地に連れて行ってってくれたりしました。夕方からビーチでピクニックをして満点の星の空を見ることがやコアラやカンガルーと触れ合うなど日本ではあまり体験できないようなことをオーストラリアで楽しむことができました。

5. 最後に

今回の研修を通して一番痛感したのは、自分の英語能力の低さでした。相手がどのようなことを言っていて何を答えたらいいかもわかっているのに、単語がわからなかったり文法がわからなかったりと、もどかしい気持ちになっていました。

オーストラリアと日本との薬学事情の違いについて学べたことによって、より深く学んでみたいと思うと同時に他の国の薬学事情についても知りたいと思いました。

今までの海外研修のなかで海外での滞在期間が一番長く、久しぶりだったこともあり少し不安でしたが楽しい出来事が多く、時間が過ぎるのがあっという間でした。自分の力不足を実感することが多く、自分のスキルを向上させるための良いきっかけになりました。他の国にも訪れてもっと経験を積み、視野を広げていきたいと思いました。



写真7. サーファーズパラダイスの街中



写真8. 薬局の様子